

共に未来を育てるために

# 進路指導の現場から

第5回

生徒に勧めるのは「面倒見のよい」大学

——指導の際、どのような観点で大学をご覧になっていますか。——  
本校には普通科、情報科、体育科の3学科があり、1学年280人の生徒が在籍しています。約9割の生徒が進学を希望し、4年制大学に進学する者は200人程度、そのほかは短大や専門学校に

進学します。近年は特に4年制大学を志望する生徒が増えています。

志望大選択で重視しているのは、面倒見のよさです。言い換えれば、「生徒をしっかりと成長させ、社会に送り出してくれる大学かどうか」ですね。その大学の研究成果や、優れた業績を持つ教員がいるかといった面も当然見えますが、実就職率、国家試験等の

## 大学への関心を深める機会と学習支援の場を設けています



岡山県立玉野光南高校 進路指導主事  
**村岡 一典**

むらおかかずのり ● 専門教科は理科・物理。同校に赴任して5年目。2014年より現職。「最後の最後まで諦めない」を生徒に伝えながら、指導教諭として、公開授業の計画、実践の指導にもあたっている。

合格率にも着目します。「自分たちが育てた生徒が、4年後、どのような姿で社会に出ていくのか」が、最も楽しみなことであり、気になる点でもありますから。

**土曜日を活用し、希望進路の実現を後押し**

——生徒の希望進路実現のために、「土曜活用」という取り組みがあるという取り組みは、具体的にどのような取り組みですか。——

土曜日に学校を解放して、学習支援や、進路選択への視野を広げる講座を開いています。もともとは3年生の受験対策としてスタートしたのですが、前年から1、2年生向けの講座も開催するようになりました。3年生向けは年間30回、1、2年向けは年間6回実施しています。基本的に自由参加ですが、多くの生徒が活用しています。

3年生向けの講座は教科ごとの受験対策が中心で、1、2年生向けのものは、基礎学力補強のための講座、大学教員を招いての出前授業、英語検定や情報検定などの資格試験対策を実施しています。出前授業に関しては、大学での学びへの関心を高めるため、土曜活用以外でも行っています。

また、本校は、修学旅行を進路について考える校外研修と位置付け、生徒に首都圏の大学や企業を見学させています。

——最近の高校生の進路選択の傾向に変化はありますか。——

生徒が大学を検討する時期が以前より早くなっていますね。加えて、現役志向が高まり、地元大学へ進学する傾向も強くなってきていると感じます。本校の大学進学希望者の8割程度は、中・四国エリアの大学に進学します。地元を離れる生徒は、「その大学でできない研究を求めている」「地元にはない学部・学科を志望している」といったケースが多いようです。こうした生徒には、エリアを

広げて大学を紹介するようにしています。

——大学の情報はどのような方法で集めていますか。——

中・四国エリアの大学に関しては、直接大学説明会に足を運んで収集し、エリア外の大学に関しては、受験情報誌などを参考にして情報を集めています。得た情報は報告書にまとめ、進路検討会でほかの教員と共有します。これは2年次に1回、3年次に3回、進路指導部の教員と全担任が集まって行うもので、ベテラン教員から経験の少ない教員へ、進路指導のノウハウを伝える機会にもなっています。本校は3学科あるので、学科間の情報共有も大切です。

——「面倒見のよさ」はデータだけでは判断しにくいのではないのでしょうか。——

卒業生が長期休暇中に本校へ戻ってきた際に、話をよく聞きます。実際に通っている本人がポジティブな感想を抱いている大学は、おおむねよいと判断します。

また、大学の教職員の方と直接お会いしたときの印象も参考になり、何げない会話の中からも、



進路指導室での一コマ。教員同士の情報交換は重要。

熱意が伝わってくることであります。特に学生の教育、キャリアサポートについて熱く語ってください。大学は、信頼できると感じます。

### 交流の機会を増やし、高大連携の強化に期待

——高校を訪問する大学関係者にリクエストはありますか。——

わざわざ来校いただいたり、直接話す時間を持つても、いつも同じような内容で終止してしまうのは、もったいないと思います。高校教員は授業のほかにも、部活の指導や進路相談に割く時間が多いので、なかなか大学の情報を集める時間を確保できません。特に近年は、入試改革や学部の新設・再編が進んでいて、情報をアップ

デートするのがよけいに難しい。新しい情報は、どんどん提供していただきたいと思っています。

——大学関係者に対するメッセージをお願いします。——

大学の方が高校訪問にいらっしゃると同様に、我々も中学を訪問し、高校での学びを伝えたり、卒業生の近況を報告しています。中学と高校の連携と比べ、高校と大学の連携はまだ弱いように感じます。模擬授業を行う機会を増やしたり、高校教員が大学に向かい、高校での授業の様子を伝えたりする機会を持つなど、もっと交流の場を設けて、親密な関係を築ければと思います。こうした関係強化が、生徒の希望進路の実現とミスマッチの解消につながるのではないのでしょうか。

### まとめ

大学からの新しい情報提供が進路指導の役に立つ  
高校は大学との交流を増やすことを望んでいる

### 高校訪問 ワンポイントアドバイス

#### 訪問する高校の昼休みの時間は事前に確認を

昼休みは本来、教員にとっては食事休憩の時間なのですが、実際は添削指導や生徒からの質問の対応にも時間を割いています。つまり、教員と生徒にとって重要な時間です。そして、大学の方に、お会いしてお話や情報交換ができる時間でもあります。だからこそ、昼休みの時間帯は高校によって異なりますので、事前に調べておくとういでしょう。